

平成23年度北区政策提案協働事業報告書

平成25年4月

地域振興部地域振興課

目 次

第1章	政策提案協働事業の制度について	
1.	政策提案協働事業の概要	1
2.	募集事業の流れ	2
3.	事業募集について	3
第2章	平成23年度実施事業の概要	
1.	ことばの地図で広げる地域活性化事業	5
第3章	政策提案協働事業の評価について	
1.	評価の目的	11
2.	事業の評価方法	11
3.	評価項目	11
4.	評価の流れ	11
5.	自己評価	12
6.	事業の評価	13

第1章 政策提案協働事業の制度について

1. 政策提案協働事業の概要

北区では、平成19年度に区民、NPO、ボランティア団体等の自主的な公益活動に助成を行うため北区協働推進基金を創設しました。

本事業は、この基金を活用し、NPOやボランティア団体等の主体的な関わりの下で区との協働によるまちづくり事業を進め、多様で豊かな地域社会を実現することを目的としています。

北区内に活動拠点を有するNPO、ボランティア団体等の公益活動を行う団体から、先駆的で公益性の高い事業を提案（以下「提案事業」という。）していただき、採択された事業について、区と協働で取り組んでいきます。

募集する事業は、区の提起した課題に対して提案する「課題提案事業」と自由な発想により提案していただく「自由提案事業」の2種類です。

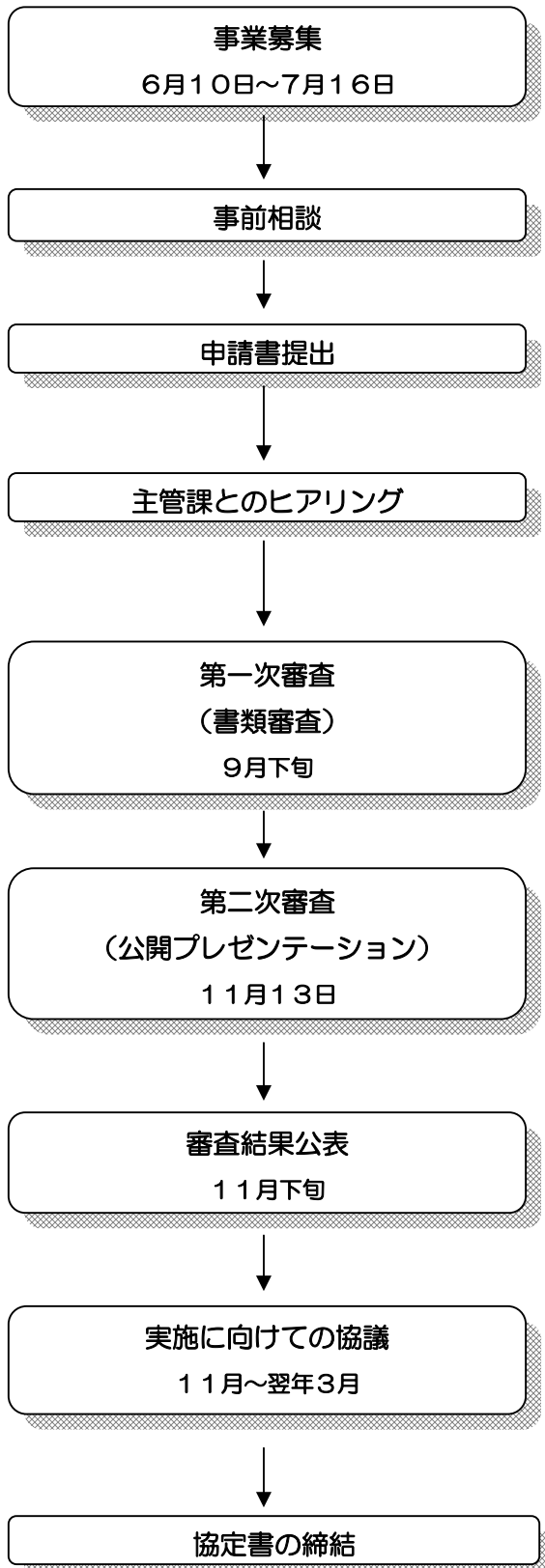
1事業に対して区が支出する上限は、300万円です（平成22年度募集時）。この300万円は、事業を提案した団体（以下「提案団体」という。）と区の双方の事業経費です。

応募していただいた提案は、提案団体と提案に関連する主管課（以下「主管課」という。）とのヒアリングを実施し、書類審査、プレゼンテーションにより北区協働地域づくり推進事業選定委員会（以下「選定委員会」という。）が審査します。

平成22年度は、9事業の応募のうち自由提案事業の1事業が選定され、23年度に実施しました。

2. 募集事業の流れ

【平成22年度】



【事前相談】

提案書の書き方などの相談を受け付けます。

【申請】

申請事業に関する書類(所定の書類)や団体に関する書類(名簿や規則など)を提出。

【ヒアリング】

主管課と事業化に向けて協議を行っていただきます。より実現性の高い事業となるよう事業内容の詳細を検討していきます。

【審査】

北区協働地域づくり推進事業選定委員会が対象事業を審査します。

【公表】

事業概要や団体名を公表します。

【実施に向けての協議】

事業実施に向けて、具体的な協議を進めていきます。

【平成23年度】

協働事業の実施
平成23年4月～平成24年3月

【平成24年度】

完了報告書提出
4月下旬



事業報告会
平成24年6月9日



事業評価

【事業評価】

事業終了後、事業効果や実施手法等についての評価を行います。

3. 事業募集について

(1) 課題提案のテーマ

	課題	概要
1	環境活動について	「環境共生都市」北区の実現に向けて、環境保全、環境学習や啓発に関する事業など環境活動についての取り組み

(2) 審査基準

審査対象	審査基準
第一次 審査基準 (書類審査)	①事業目的は地域課題の解決を目的としたものか
	②事業手法に独自性、先駆性が認められるか
	③適切な役割分担となっているか
	④提案事業は実現可能か
	⑤協働で取り組むことによる事業効果を認めることができるか
第二次 審査基準 (プレゼンテーション)	①提案団体に事業の実現に対する熱意・意欲が感じられるか
	②提案団体に事業を実現する能力を認めることができるか
	③提案団体に新しい課題に対するチャレンジ精神を認めることができるか
	④事業内容に整合性が認められるか
	⑤協働への取組により提案団体、区に相乗効果が期待できるか
	⑥総合的観点から、実施すべき事業と認めることができるか

(3) 選定事業

自由提案事業

	事業名	団体名
1	ことばの地図で広げる地域活性化事業	特定非営利活動法人 ことばの道案内

第2章 実施事業の概要

1. ことばの地図で広げる地域活性化事業

提案団体 特定非営利活動法人ことばの道案内
主管課 健康福祉課

(1) 団体概要

言葉の道案内の制作及び啓蒙普及活動に関する事業を行うとともに、音声対応したインターネット環境を整備することで、視覚障がい者及び視力の衰えた高齢者等の外出とその後の社会参加を支援し、社会福祉の増進と情報化社会の発展に寄与することを目的としています。

(2) 事業目的

北区内の各施設までのことばの地図（道案内）を充実することにより、発信情報をバリアフリー化し、外出支援の促進と、地域の活性化を図ります。

(3) 事業概要

- ① 観光ガイドマップ「王子・西ヶ原エリア」の施設から名所・役所関連施設を中心に、20カ所程度のことばの道案内及び観光ポイント情報の作成
- ② ことばの駅情報及びことばの道案内、北区のサイトを連動させた観光WEBの構築及び公開
- ③ 視覚障がい者のための点字及びデージー（デジタル録音図書）資料の作成
- ④ 将来IC（電子回路）タグ埋設に関するポイントの確認

(4) 役割分担

- 団 体：① ことばの道案内の作成
② ことばの道案内作成のためのボランティア育成
③ WEB管理

- 主管課：① 情報のバリアフリー化への取り組み
② ボランティア募集や事業周知の広報
③ 活動のための資金及び研修場所の提供

(5) 事業の実施内容（平成23年5月～平成24年3月）

期 日	内 容	備 考
5/1（日）	（北区ニュース）掲載（5月1日号）	
5/18（水）	講習会	北とぴあ
5/21（土）	講習会	滝野川会館
6月	A原稿作成	
7月	B原稿作成	
7/12（火）	第1四半期完了 ミーティング	北とぴあ
9月	C原稿作成	
9/13（火）	第2四半期経過 ミーティング	北とぴあ
10月～12月	原稿チェック・整理	
1/17（火）	第3四半期完了 ミーティング	北とぴあ
2月	原稿読上げ・検索WEBに公開	
3月	周遊原稿完成・ことばの観光地図 WEB 構築	
3/22（木）	第4四半期経過 ミーティング	北とぴあ
3/27（火）	点訳版・音訳版纳品	
3月末	報告書提出	

① 道案内作成のためのボランティア育成（講習会）

5月に2回、2会場（写真1・2）で開催し、延べ10人の参加がありました。そのうち新規事業参加者は、視覚障がい者3名、健常（晴眼）者4名の合計7名で、北区ニュースで広報した効果が表れたと思います。内容としては、約2時間半の中で、協働事業として実施する意義や簡単な事業内容の説明を行うとともに、実際の道案内作成方法について、すでに公開した原稿などを参考に確認してもらいました。

写真1



写真2



② ことばの道案内作成

講習会実施の翌月から活動を開始し、6月にA原稿作成（下原稿）、7月にB原稿作成（確認原稿）、9月にC原稿作成（最終確認原稿）と進めていきました。

具体的には、視覚障がい者が最低1名、健常（晴眼）者が最低2名以上のグループで、方角の確認や距離の計測（写真3）などの現地調査を行い、視覚障がい者でも入力可能な音声ソフトを利用し、原稿入力（写真4）を行いました。新規事業参加者の方々も、机上の講習では意味がわからなかった点について、何度かの活動を通し、少しずつ理解できたようです。

その後、原稿整理を10月から12月にかけて、現地での再確認など行いながら実施しました。

このように何度も原稿の確認を行うのは、安全性と正確性に万全を期すため、さらに毎回異なるグループで調査を行うことで、それが担保できたと思っています。

写真3



写真4



③ WEB管理

上記原稿の読上げチェックを行いながら、まずは23施設を対象にした通常道案内（往復で46ルート）を検索WEBに公開しました。

その後、周遊原稿を完成させ、「ことばによる北区観光案内地図（<http://kita-kotobanokanko.com/>）」（写真5・6）として新規にWEBを構築し、最終的に10の周遊ルートを3月に公開しました。このWEBは、北区観光ホームページ（<http://www.kanko.city.kita.tokyo.jp/>）にもリンクを行い、多くの方の利用促進を図っています。

写真5



写真6



(6) 事業の決算額 3,453,450 円

区分	項目	金額(円)
収入	政策提案協働事業補助金	3,000,000
	団体負担金	453,450
	収入計	3,453,450
支出	人件費	1,343,100
	印刷製本費	185,200
	委託料	1,890,000
	備品購入費	25,000
	ボランティア保険料	3,000
	消耗品費	7,150
	支出計	3,453,450

(7) 事業の成果や課題

① 事業参加者募集による人材の確保

本事業では、はじめて区内から新規事業参加者を7名（視覚障がい者3名・健常（晴眼）者4名）募ることができました。この意義はとても大きく、今後この事業を拡大、そして維持更新していくために必要な地域の活力になっていくと感じています。また、そのうち2名が活動に賛同し、団体の正会員になったことも活動を支えていくうえで大きな財産になりました。これらの経緯から考えるに、協働事業として周知された証で有意義な広報ができたと思っています。

② 視覚障がい者と健常（晴眼）者の相互理解

一般的に障がい者を対象とした活動には、障がい者、健常（晴眼）者がそれぞれ単独で活動しているケースが多い中、本事業では、当団体の活動指針に従い一緒に活動を行いました。

よって、はじめて視覚障がい者と接する健常（晴眼）者がおり、「視覚障がい者が日常どんなことに困っているのかについて理解ができた」という感想もあり、ノーマライゼーションへの取り組みを進めていくうえで有意義な活動になったと思います。

③ ことばの道案内及びことばの観光地図作成

本事業にてはじめて取り組んだのが、社寺への道案内作成です。協働事業により、各施設までの調査もスムーズにできました。従来は公共施設などが多かった中で、希望のあった観光分野への取り組みができたことは、活動の大きな発展となりました。

具体的にことばでつなぐ周遊ルートも全国ではじめて作成し、今後の利用（アクセス）を検証していきたいと思っています。

④ 成果物（WEB・点訳・音訳）

本事業では、新規に「ことばによる北区観光案内地図」のサイトを立ち上げました。このサイトは、健常（晴眼）者でも利用できるようグーグルマップの利用を可能にし、写真なども貼付してユニバーサルなものに仕上げました。

また、北区地域づくり応援団事業で、すでに作成したことばの駅情報にもリンクし、視覚障がい者の利便性向上も考え構築しています。WEBは冊子と異なり、更新がしやすいという利点があります。この他に周遊ルートに関する音訳版、点訳版も作成し、WEB等が苦手な方にも配布していきます。

(8) 平成24年度の取り組み

平成24年度以降も、メンテナンスやエリア拡大などを目標に、事業を継続します。また、実際の利用や周知の意味でも、6月にウォーキングイベントを開催予定です。

将来的には、ICタグを埋設した道案内としてより安全な移動支援という意味で展開できるよう、引き続き埋設ポイントの検討なども協議できれば良いと思います。

第3章 政策提案協働事業の評価について

1. 評価の目的

協働事業の成果を団体、主管課、選定委員会で検証することにより、事業の妥当性、実施効果を確認し、協働事業の改善への取組、今後の協働事業に役立てるために行います。

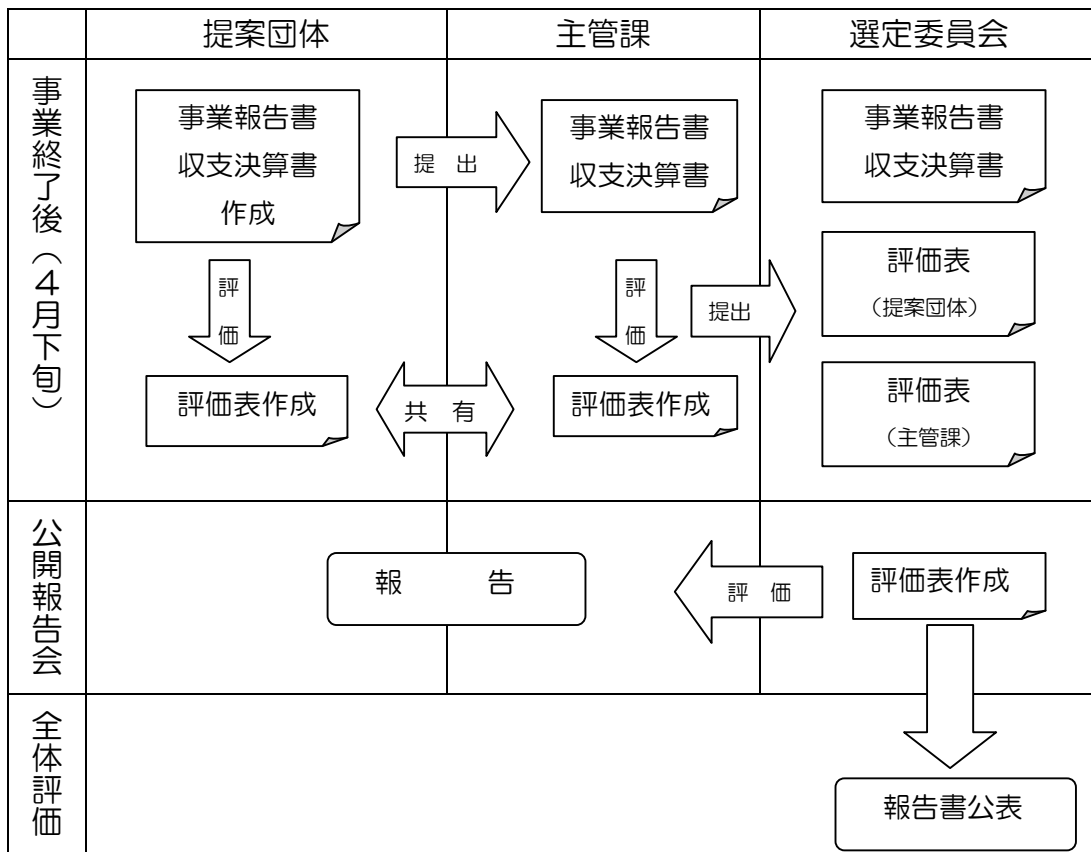
2. 事業の評価方法

協働事業を行った団体と担当の主管課が自己評価を行い、選定委員会へ提出します。事業報告と自己評価に基づき選定委員会が評価し、その内容を公表します。

3. 評価項目

- (1) 計画段階での取組
- (2) 事業の進め方
- (3) 協働で取り組んだことによる効果
- (4) 協働事業の成果

4. 評価の流れ



5. 自己評価

(1) 団体の自己評価

本事業の目的はほぼ十分に達成されました。実際、北区からこの事業に参加された視覚しょうがい者の意見として、まず出かけるための情報が増えるのは嬉しいとお話しいただいたこともあり、事業目的を達成するための手段として、観光等のことばの情報を充実するという点で、効果が高かったと判断しています。

協働事業の意味として、計画段階より、主管課には綿密な打ち合わせ及び相談にのっていただきました。役割面において、スタッフ募集における広報、講習会や活動場所の確保などにもご協力いただいたことで、事業の進捗をスムーズに運ぶことができました。参加された皆様の意見を伺っても、当法人だけの活動は知っていたが、区民として一緒に活動ができることを知り、参加したとのお話がありました。協働という点で、参加された皆様への信頼度が高いと感じました。私どもとしても、この事業において、今回はじめて北区から参加された新規スタッフ7名（視覚しょうがい者3名・健常（晴眼）者4名）を募ることができました。この意義はとて大きく今後、この事業を拡大そして維持更新していくための大きな人財となります。

課題としては、計画段階で対象者へのヒアリングまで至らなかったことです。初めての試みという点で、提案の段階で、北区の観光はまず飛鳥山地区ということに決めすぎていたところがありました。今年度は、エリアを少し拡大するとともに、利用面でウォーキングイベントを6月に開催したいと思っていますので、その中で確認していければと思っています。

さらに、今後このマップがどの程度利用され、視覚しょうがい者の外出等が高まるのか、検証していく必要があると考えております。

また、まだまだことばの地図を知らない方へのPRはもちろんですが、健常（晴眼）者の方に視覚しょうがいの方と接していただくことで、相互理解につながっていきたいと思います。この取り組みが北区の観光ホームページにリンクされ、北区外の方にも知っていただくことで、多くの方が北区にお越しいただくことになれば、地域の活性化に繋がるものと思います。区のホームページ等でもこの事業の参加者募集や成果をもっとわかりやすくPRいただくことを期待します。

※当団体では、「視覚障がい者」を「視覚しょうがい者」と表記しています。

(2) 主管課の自己評価

最初の計画段階から事業目的が分かりやすく、すでに全国的に実績のある団体であったため、北区の固有の特徴、特性だけをすり合わせればよかったので、スムーズに計画することができました。ただし、実際に事業を進める段階では、時間が合わず、主管課として実地踏査などの活動に参加することができません

でした。ボランティアの募集では、説明会には同席しましたが、区と一緒に
なってボランティアを育てるという視点がなかったので、今後は区も人づくり、
ボランティアづくりにどうかかわるか検討していきたいと思っています。

また、協働で取り組んだ効果としては、団体のノウハウを活かし、ボラン
ティアの参加で少ない経費で目的が達成できました。特に北区ニュースでボラン
ティアを募集したことで、必要な人材を得ることができたと思っています。

最後に、点字版・音訳版の地図作成にあたり、その配布方法や管理方法につ
いて、事前にもう少し検討・意見交換しておけばよかったと感じました。

また、新しい観光ルートをどのように設定するかとともに、既存のことばの
地図（WEB・点字・音訳）の継続的な維持管理をどのように進めるかが今後の
課題と考えます。

6. 事業の評価

（1）計画段階での取り組みについて

具体的で、今までの経験やスキルが活かされた計画であり、実現性の高い事
業となった。視覚障がい者にとって暮らしやすいまちとなることは、一般市民
にとっても暮らしやすいまちとなることは明白で、本来行政が取り組むべき社
会的インフラであると思われるが、民間で当事者でもあるNPOの活動で取り
組むことにより、効率的で高い成果を生み出す計画となっている。

ただし、点字ブロックもかなり増えてきていると思うので、主管課などと
もっと協力し、視覚障がい者の立場に立って事業を進めていく必要がある。

また、高齢者の利用への働きかけなど、せっかく作りあげたものが広く利用
されるような方策を考えてほしい。

（2）事業の進め方について

経費の多くの部分が人件費に割り当てられているが、この事業はノウハウが
必要なので妥当と判断できる。実際には多くの現地調査が必要で、大変な作業
だったと思われるが、調査を通じて点字ブロック未整備の地域を発見し、新た
に点字ブロックが整備されるなど副産物的な成果をみることができた。もう少
し行政が案内をつくる施設の選定や区外から訪れる人にも利用しやすいPR方
法の検討などに協力し、積極的に実地調査にも関与していくと、より地域貢献
度の高い事業になるのではないかと思う。全国でも先駆的な取り組みであり、
北区のセールスポイントの一つになるのではないか。

特に観光ウォーキングイベントはすばらしいと思う。健常（晴眼）者の主体
的な参加を促し、活動の基盤を広げるチャンスになりうる。こうした活動など
を通じて、支援者（ボランティア）クラブのようなものを立ち上げていくと、
支援基盤がさらに確固となるのではないか。今後は全国とのネットワーク作り
の役割が待っている。他地域の活動への支援など、さらなる活動を期待したい。

(3) 協働で取り組んだことによる効果について

駅や公的施設など、民間の立場では関係を築きにくいところも、行政と協働することによって大きな信頼性を得ることができた。行政もNPOの意見をよく理解し、協力体制が持てたと思われるが、部課を越えた連携を図り、もっと積極的に事業に取り組んでもらいたい。例えば、実際の調査などの活動にも行政職員が同行したり、他の作業においても一緒に取り組むなどの関係性を構築することができれば、行政的課題もさらに発見することができたのではないかなと思う。

また、北区の広報により新規スタッフ7名が参加したことは大いに効果があった。さらに、道案内を作成するにあたり、視覚障がい者が一緒になって活動したことはとても有意義であったと思う。今後もNPO、行政、市民が一体となって協働で事業を進めてもらいたい。

(4) 協働事業の成果について

当初の目的は十分達成されたと思われる。何より、視覚障がい者と健常（晴眼）者が協力できたことがすばらしく、こうした活動を通じて蓄積されるノウハウを今後の活動に活かすことによって、より効率的でコストのかからない活動に結び付くのではないかな。

また、ボランティアの協力を得ることにより、北区のまちを知り、障がい者に対する理解を得た人材を育成することができたと思う。

今後の方向性や反省点の話し合いもできており、今後の活動に大いに期待できる。

(5) 将来性

新ルートの開発やメンテナンスなど継続性があるので、対応エリアの拡大や、説明内容の精度を高めるなど、活動のさらなる広がりが期待される。

他の観光ルートへの拡大ができるよう課題を整理して、体系的な方法を完成してほしいと思う。特に視覚障がい者の視点に立って、サウンドスケープ（音風景）やスメルスケープ（嗅覚風景）を活かした団体ならではの観光ルートの開発も検討していただきたい。

また、区外の方や高齢者が気軽に利用できるよう、設置場所を多くするなどの工夫が必要。

今後は、継続的な資金提供が得られるスポンサーを見つけることが重要な課題になる。今後の可能性に期待している。

平成23年度 北区政策提案協働事業報告書

平成25年4月1日発行

刊行物登録番号
25-1-002

発行 東京都北区地域振興部地域振興課
東京都北区王子一丁目11番1号
電話 5390-0093 (ダイヤルイン)